

八木和一先生を偲んで

本学会名誉会員の八木和一先生におかれましては、2026年1月1日、享年86歳にてご逝去されました。ここに謹んでご報告申し上げますとともに、心より哀悼の意を表します。

八木和一先生は、1964年に和歌山県立医科大学をご卒業後、1969年に鹿児島大学大学院（神経精神医学、神経生理学）を修了されました。1976年より設立間もない国立療養所静岡東病院（現・国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター）に赴任され、神経科医長、臨床研究部長、副院長を歴任されました。その後、1996年より院長として、診療・教育・研究の各分野にわたりご尽力されました。

本学会においては、1993年より理事を務められ、1997年から2005年まで理事長として学会運営および後進の育成に多大な貢献をされました。この間、2004年には第38回日本てんかん学会学術集会大会長を務められました。さらに、国際抗てんかん連盟では教育委員会委員、アジア・オセアニア地区委員会委員、アジア・オセアニアてんかん機構日本代表委員を歴任され、とりわけアジア地域におけるてんかん学の発展に寄与されました。

てんかんに関する数々のご業績のなかでも、Lennox-Gastaut症候群の臨床的研究、欠神発作に関する研究、てんかんのリハビリテーションに関する研究、難治てんかんの包括医療に関する研究は、その後のてんかん学の発展に大きく寄与するものでした。先生の温厚誠実なお人柄と、臨床と研究に対する真摯な姿勢は、多くのてんかん診療に係る医療者に深い感銘を与えております。

八木和一先生のご逝去は誠に痛惜の念に堪えませんが、そのご功績は今後も永く語り継がれていくものと存じます。ここに生前のご厚誼に深く感謝申し上げますとともに、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

日本てんかん学会
理事長 白石秀明